

2023 CAF.N びわこ展



■ 概況 ■

「2023CAF.Nびわこ展」は、昨年の開催に引き続き、コロナ前の環境に近い状態で開催することができました。「2020CAF.Nびわこ展」「2021CAF.Nびわこ展」は、新型コロナウイルス感染症パンデミックにより開催中止を余儀なくされ、その時に感じた辛く苦しい思いと、「2022CAF.Nびわこ展」で感じた表現できる喜びの両極を意識しながら、アートの本質である「純粹であり続けること」を胸に秘め、開催できる喜びを噛み締めました。この感情や時間を未来に向けた一筋の光と捉え、ローカルアートの再構築、純粹芸術と社会とのつながりを確実なカタチへ導けるよう実行委員会の新たな指針とする意思を固めた次第です。新型コロナウイルスに対する不安を完全に払拭するにはまだまだ時間はかかります。終息方向に向いているとはいえ、感染者数が再増加傾向にあった時期でもあり、「2023CAF.Nびわこ展」は出品辞退など参加作家が少なくなるものと覚悟していました。その様な中、新たな表現に挑戦する意欲的な28名の作家の皆さんが参加を表明してくださり、大津市歴史博物館にて5月2日(火)～7日(日)の会期で復活第2弾の開催が実現できました。本展定番の「消える彫刻」と「自由詩」の

ワークショップ、ギャラリー散歩も無事に実施することができました。残念ながら、新型コロナウイルス感染症対策により恒例となっているデイサービスセンターの団体鑑賞は2年連続実現できませんでした。来場者数は255名と昨年を上回りましたが、これまで通りとはいきませんでした。鑑賞者は少なくとも「2023CAF.Nびわこ展」では、人、文化、環境等、様々な美の関係性を構築するアートの力を改めて感じました。本展の共催事業である「藤樹の里キッズアート」も8月2日～4日の3日間で通常開催ができ、子ども達へ指導することができました。コロナウイルスという大きな壁が未だ立ちはだかった状況ではありますが、アートの力で闘う姿勢を継続し、活動のモチベーションを高めるスイッチを押す、アートな環境をつくることができたのではないかと思います。感じる心と素直に向き合う展覧会を運営できたことは、表現者の自信となります。開催できて本当に良かったと、心の底から思うことができました。「NEW CAF.Nびわこ展」にご支援、ご協力いただいた皆様に深く感謝いたします。ウィズ・コロナ、アフター・コロナに向けて進み出した展覧会の応援を引き続きよろしくお願いいたします。(藤原昌樹)

■ 記録 ■

- 名称=2023CAF.Nびわこ展
- 会期=2023年5月2日(火)～7日(日)
- 会場=大津市歴史博物館
- 参加者=池田丈一、稲葉広樹、上木淳吉、宇高眞智子、うらゆかり、小椋昌彦、小多譲仁、鹿島寛、片山龍一、小泉桂子、佐野耕平、志水昌弘、下川まち子、中川知美、にしのあかね、林正彦、日花治子、フジタケシ、藤原和子、藤原昌樹、藤原みどり、堀健、松田朋子、まつもとやすこ、磨野郁子、水嶋康宣、村上博、若林節子
合計28名(立体:13名・平面:15名)

■ 開催予定 ■

- 名称=CAF.Nびわこ展 一湖の覚層Vol.4-
- 会期=2023年12月4日(月)～28日(木)
- 会場=るーぶる愛知川
- 名称=CAF.Nびわこ展 -KUROGO Vol.3-
- 会期=2024年1月5日(金)～28日(日)
- 会場=るーぶる愛知川